

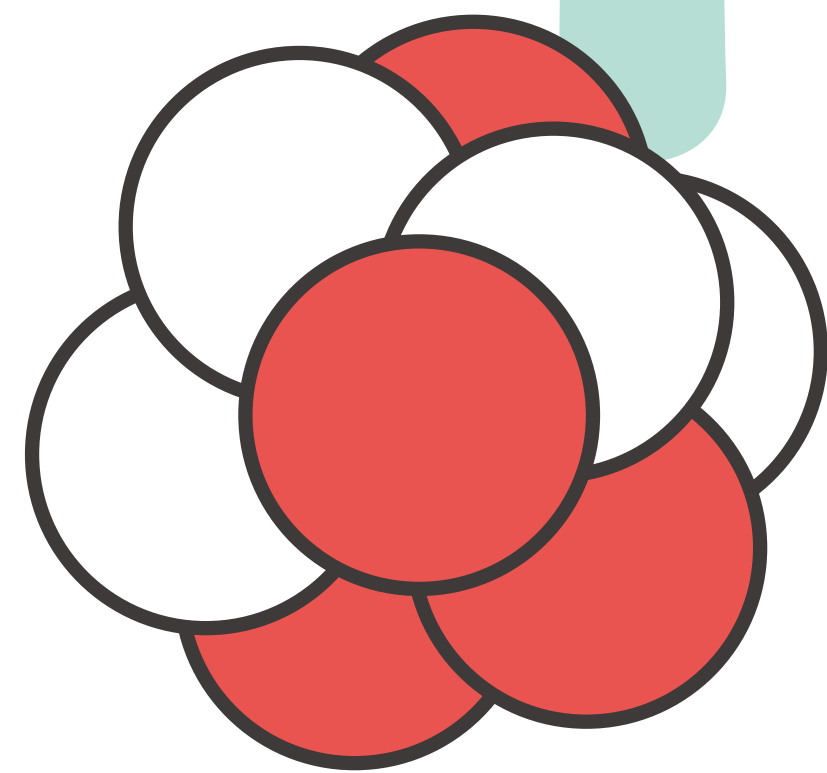
はじめに

3.11 で私たちが直面したのは、放射線という“想定外”のリスクでした。そのリスクは、常にそこにあったにもかかわらず、私たちはゼロリスクの実現を専門家に求めて安心してしまっていたのではないのでしょうか？

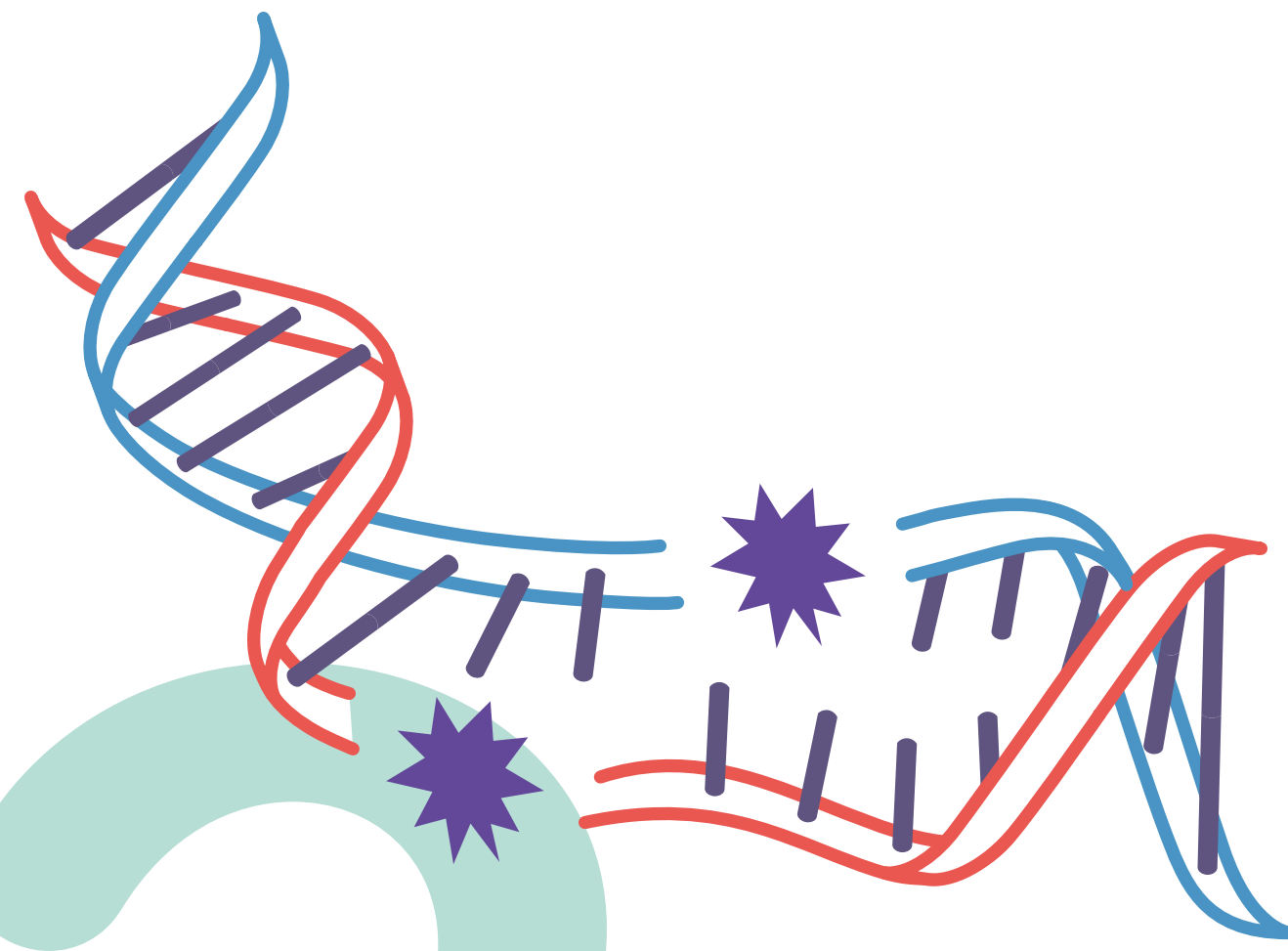
さまざまなリスクに対処するためには、(1) リスクをもたらすものの正体を知るとともに、(2) そのリスクの性質について科学的にとらえておかねばならないでしょう。またその上で私たちは、(3) いくつかのリスクを合理的に受け入れる選択をする必要があるでしょう。放射線ワークショップでは、これら3つを柱としています。

ワークショップ「放射線」

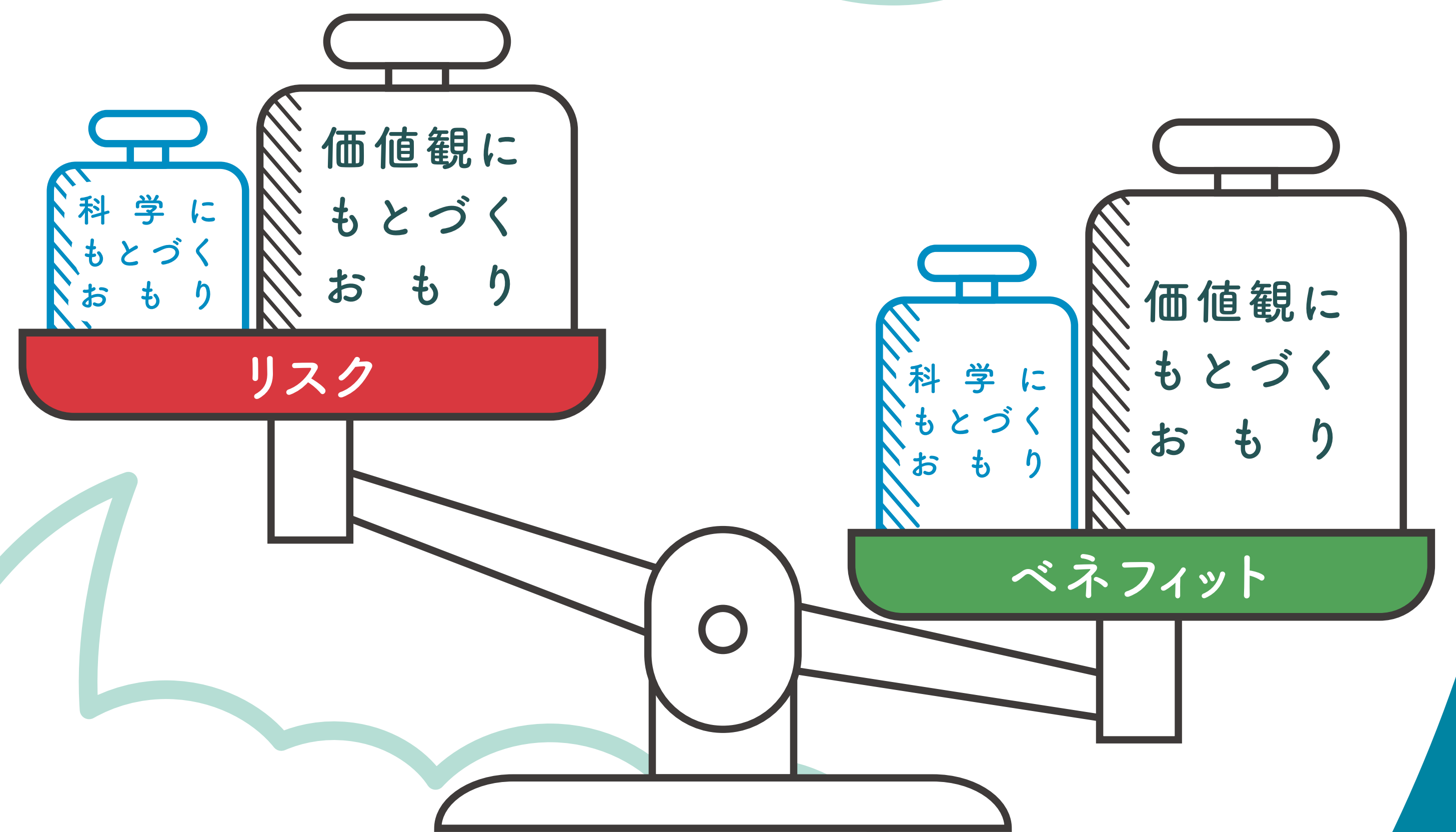
1
リスクをもたらすもの
放射性物質の基礎知識



2
リスクの性質
放射線被ばくの人体への影響



3
リスクへの対処
リスク天秤という道具



リスク天秤にのせて比べる3つのパターン

リスク と ベネフィット

リスク低減対策がもたらす別のリスク と リスク低減対策がもたらすベネフィット

リスク と リスク

ワークショップ「放射線」の様子

本展示で紹介しているワークショップ「放射線」は、未来館の学校団体向けプログラムの一つとして、年間20校をこえる中学校へ提供しています。(所要時間:60分)

お問い合わせ

日本科学未来館 団体予約受付まで
(TEL:03-3570-9188)



来館者の声をもとにしたコンテンツ開発

科学コミュニケーターは、日々さまざまな来館者と対話をしています。その対話から、人々は、放射線とそのリスクについて、どのような印象や疑問を抱いているのか、来館者の声を集めながら、ワークショップの内容を構成・改良しています。

